

地域密着型サービス評価の自己評価票

グループホーム 久米の家

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	10月に地域住民の方を対象に「認知症サポート養成」を企画している。一人でも多くの認知症理解者をつくり、認知症になっても安心して暮らしていけるようようにしていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護予防教室、アロマセラピー教室、認知症の講演会の開催等地域住民を対象に行っている。	○	10月に地域住民の方を対象に認知症サポート養成その後も介護教室を企画している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を勤務職員以外(夜勤・遅番)全員で話し合い検討した。外部評価の結果は、定例会で報告し、改善方法については、議題として話し合う。また、自己評価・外部評価の結果はいつでも見られるように、ホールに提示してある。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一回程度開催している。外部評価の結果についても報告し、またサービスの困難事例についても話し合い、意見を求めている。	○	2ヶ月に一回開催出来るようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所で判断出来ない事、わからない事など、市町村担当者に相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員には、パンフレットを使って制度については、説明をし制度の理解に努めている。	○	新しい職員への施設内研修として勉強会を行っていききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、研修報告を通じて他職員と研修内容を共有している。また、定例会で高齢者虐待防止関連法については、話し合っている。	○	新しい職員への施設内研修として勉強会を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、時間をとって説明をしている。また、事業所の出来ること、出来ない事をご利用者様の状態に合わせて、伝え話し合っている。解約時には、解約に関する説明事項を説明し、了解を取っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>半分以上のご利用者様がご自分の意見をはっきり言われる。出された意見は、定例会などで検討している。また、ご自分の意見を言われぬご利用者様には、表情や行動から読み取るようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>請求書、領収書を送付する際にご利用者の様子もお知らせしている。また、日々その都度ご家族様に連絡したり、面会時にも様子をお知らせしている。日々の様子をビデオに撮り、家族会でビデオを見て頂いている。職員の異動も家族会で報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に国保連や市役所の苦情係り、ホームの苦情係りを説明している。また、玄関に意見ポストを設置している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会や面談を通して、職員の意見や提案を聞いている。(助成金や月1回の施設内研修、業務改善、勤務時間変更など職員の意見が反映された)また、介護リーダーが職員の意見を聞き代表で管理者に聞いている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態に応じて、遅番勤務時間を変更し、対応している。</p>	<p>○ 終末ケアなど夜勤2人体制など柔軟な体制を取っていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動も併設施設である為、以前と変わらず一日何度も行き来がある。その都度、ご利用者様に声を掛けるなどしてコミュニケーションを図っている。また、開所当時から職員が何人かおり、新しい職員にもご利用者様のこだわりやケアの引き継ぎが十分に行われている。新しい職員が入った場合もご利用者様に紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修係が認知症について、紙芝居を作り施設内研修をしている。施設外研修も職員の能力、経験年数に応じて決めている。また、施設外研修のお知らせを行い、職員の興味のある研修は、自発的な学びの気持ちにつなげていっている。</p>	<p>○</p> <p>8月より、介護研修センターの巡回講習会を利用して、施設内研修を計画的にしている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会や小規模ケア連絡会などに参加し、ネットワークづくりや交流を行っている。また、夏祭り等で行き来している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>残業をしなくていいように、時間内に仕事が終わるように、業務改善を行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者自ら現場に入って、職員の状況を把握している。その時の職員の能力に合った課題を投げかけ、職員に現状を振り返る機会をあたえている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に面談に行き、関係づくりに努めている。また、見学に来て頂き、ご本人に会って思いを聞くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族様の思いを組みとるようにしている。その思いを何処まで実現に近づけるか、また、何処までホームが支援出来るかを話し合っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様やご家族様の思いや状況を確認し、居宅のケアマネジャーや地域包括支援センターと連携しながら、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学に来て頂いたり、訪問したり、体験利用を実施したり、関係づくりを行いながら、行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用様を人生の先輩として、料理方法・裁縫・戦時中の話・歌などを教えて頂いている。ご利用者様と共に笑い、一緒に喜び、悲しい時や寂しい時は、寄り添うようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	こまめにご家族様と連絡を取り合い、ご家族様と共に考えるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時にご利用者様の出来る力、ホームでの役割を伝える事で、ご利用者様とご家族様の関係が良くなったケースもある。面会時、居室でお茶を飲まれながら談笑されている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用様が住んでおられた地域の友人、知人の方が面会に来られる。また、ご利用様が住んでおられた地域にドライブに行ったりしている。併設施設ほっとから入居されたご利用者様には、ほっとのご利用者様、職員と馴染みの関係が続くように行き来している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様同士の相性に配慮しながら、テーブルの座られる場所も考えている。また、配慮しているが、うまくいかない事もあり、定例会で話し合いアイデアを出し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されたご利用者様のご家族様がホームに来られたり、スーパーで会うと状況を教えて下さる。年賀状のやり取りがあり、講演会、夏祭りに遊びに来られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様の協力を得てセンター方式を活用し、その人らしい暮らしに近づけるためには、何が必要で何をどうしたら近づけるのか、定例会で話し合っている。ご利用者様の言われる事、つぶやきを参考に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の協力を得てセンター方式を活用し、馴染みの暮らし方の情報収集に努め、職員で情報を共有している。ご利用者様が今でも昔からの掃除方法をしておられると、「家に居る時みたい。」と言われる。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式の「出来ること、出来ない事」シートと「私のわかる事、わからない事」シートを使用し、出来る力を大切にしている。出来る事は、継続して支援し、出来ない事には、こだわらないようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様には、日常的会話から思いや意見を聞き、ご家族様には、面会の際の意向を聞き、定例会で職員全員で話し合いアイデアを出し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の契約期間終了前に、定例会時に見直しを行っている。また、状況変化に応じて計画を変更している。定例会で1ヵ月に一回見直しをかねてサービスについて話し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用様が言われた事に真意があり、記録に残し、情報を共有している。プランの実施表でケアの確認をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ドライブ、お孫さんの結婚式への参加等、ご利用者さま、ご家族様の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の交番、消防署、地域の方によるギター演奏のボランティアと連携を取り合っている。交番の方もホームに立ち寄りられる事でご利用者様の安心にもつながっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、訪問理美容サービスを利用されている。	○	他のサービスの活用も視野に入れながら、対応していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	サービス内容について、地域包括支援センターの方に相談、助言をして頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医に2週間に一回の往診や通院で受診支援を行っている。以前からのかかりつけ医での医療を継続して受けておられるご利用者様がおられ、ご家族様と協力して通院介助を行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定例会で出た認知症に関する疑問を管理者を通して相談している。また、治療を受けられるように、ご家族様と協力して通院介助を行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の小規模多機能居宅介護事業所に看護師がいる。以前ホームに勤務しており、ご利用者様とは、馴染みの関係であり、定期的に状態を報告し連絡している。また、訪問看護ステーションと契約を結び、一か月に一回訪問され、医療面での相談、助言の対応を行ってもらっている。(24時間対応可能である)		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者様が不安でないように、入院先に面会に行っている。又ご家族様病院関係者とも連絡を密に取り、相談にも応じている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所で「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、事業所の出来る範囲を説明し、終末期についての希望をご利用者様、ご家族様と話合っている。又、その後も、ご利用者様の状態変化に応じて、その都度意向を確認している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者様やご家族様の意向を確認し、主治医、訪問看護ステーション、事業所で連携を取っている。急変時には、主治医に連絡をとり、指示をもらい対応している。訪問看護ステーションも24時間連絡可能である。	○	終末期ケアに対しての職員の不安を話し合い、終末期ケアにおける勉強会を行っていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他事業所へ移られた場合は、情報提供書として、ケアの工夫、ご利用者様のこだわりを詳しく伝え、暮らしの継続に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者様の個人情報、鍵付きの戸棚に入れてある。記録類も事務所で管理してある。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者様によっては、希望や選択に迷われる方がおられ、自己決定が難しい場合がある。職員がアンテナをはり、日頃の会話からご利用者様の意思を組み取るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、あるがご利用者様の一人ひとりの体調に配慮して、過ごして頂いている。居間で新聞を読まれたり、併設の施設 ほっとに自由に行かれたり、職員と買い物や銀行に行かれたり、時にビールやワインを飲まれたりしておられる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴時洋服をご利用者様に選んで頂いている。車椅子を使用しておられるご利用者様も、車椅子でダンスの前まで行かれ、ご自分の好みの洋服を選んで頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ピューラーで野菜の皮むきをして下さる方、包丁で野菜を切って下さる方、盛り付けをして下さる方、配膳をして下さる方、一人ひとりの出来る力に働きかけている。食べられるとさーっと下膳されご自分の食器を洗われる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族様からご利用者様の嗜好物を聞き、配慮している。抹茶が好きなご利用者様には、抹茶が飲める機会をつくっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握して誘導している。夜間は、尿量、睡眠状態、ご本人の希望に配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在重度化に伴い、夕食後は、職員体制の関係から、入浴の希望があった時は、シャワー浴で対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を豊かにし、生活リズムを整えるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る力、昔からされている事に焦点をあてて、ホームでの役割を考えている。して頂いたことには、必ず感謝の言葉をご利用者様に伝えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様の安心のためにも、ご家族様の協力を得て、少額持っておられる方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と買い物、銀行、市役所、薬局などに出掛けておられる。共用通所の送迎時にドライブに行かれたり、季節のいい時は、散歩に出掛けたりしている。	○	気軽に喫茶店にお茶を飲みに行ける支援をしていきたい。以前ご利用者様同志の会話で「ここら辺は、映画や芝居を見せるところがないが。」と言われていたので、支援につなげていけるように心掛けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様と定期的に外出を楽しまれている。今年の春お孫さんの結婚式に行かれたご利用者様もおられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をホームで預っており、希望時にご家族様と連絡を取り合っておられる。	○	年賀状や暑中見舞いを書く支援をして行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や憩いの場でお茶を飲まれながら、ゆっくりと談笑されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のケースは、今までない。	○	新しい職員への施設内研修として勉強会を行って行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は、開いておりご利用者様がご自分の洗濯物を持って入られたり自由に出入りされている。また、6時くらいから、居室側の窓から庭に出られ草取りを自発的にしておられるご利用者様もおられる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、記録を日中利用者様がおられるホールでしており、さりげなく見守りをしている。夜間は、2時間おきの巡視をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	予備の洗剤類などは、洗面台の下に収納し職員が管理している。包丁は、台所にしまっているが、ご利用者様要望があれば、職員見守りのもと使っておられる。針やはさみも同様である。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを使い定例会で話し合い、職員間の共有認識として、リスクを予測するように心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の方に来て頂き、救急救命法の講習会をして頂いたが、「一回では、不安。」と言う声もあり、年間施設内研修の計画にあげている。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域や消防署と協同した避難訓練等を定期的に行っている。水害時等のマニュアルも作成している。通報システムの連絡網に地域の方にも登録頂いている。	○	備蓄品を確保して行きたい。また、訓練した事やマニュアルが身に付くようにして行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の危険性についても、あらかじめご家族様に話しをして理解を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調異変時、職員申し送り時等で情報を共有している。顔色や様子の変化時、バイタル測定し記録に残している。また、管理者、看護師に報告し指示を得ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋は、ケースファイルに綴じてあり、職員がいつでも見れるようになっているが、内容まで把握していない。	○	薬の内容を全職員で把握して行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日1300cc以上の水分を取って頂くように工夫している。個々の排泄パターンをつかみ、ご利用者様の苦痛がないようにトイレにゆっくり座って頂く習慣を支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし、1人ひとりに合わせて支援、介助をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、1人ひとり1日のトータルをチェック表に記入している。食事量は、注意を必要とするご利用者様のみ記入している。管理栄養士の資格を有するボランティアの方に、定期的に栄養バランスをチェックしてもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、職員1人ひとりが意識している。手洗い、うがい、手指消毒をご利用者様、職員徹底している。面会時にもご家族様に手洗い、手指消毒をお願いしている。	○	疥癬、MRSAを新しい職員の施設内研修に付け加えたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキンは、その都度ハイター消毒している。毎日買い物に行き、新鮮な食材を購入している。また、残り物を出さないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご利用様や、面会時の方が、靴が履きやすいように、玄関に備え付けの椅子を設置してある。車椅子の方用にスロープもある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、庭や畑に咲いている花を飾るようにしている。臭い、雑音、光など職員が気を付け早目に対応している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	憩いの場にソファや机を置き、そこでくつろがれているご利用者様もおられる。併設施設との渡り廊下にもベンチを置いている。季節のいい時、ベンチでゆっくりとお茶を飲まれている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使いなれた布団類、写真、絵画を持ち込んでおられる。また、入居時に使い慣れた物を持って来て頂くように、ご家族様にお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールの天上にファンをつけて、暖房や冷房の空気が循環するようにしている。また、居室に24時間換気が設置してある。冬は、トイレ、浴室の脱衣場に暖房を置き、温度差に注意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの高さをご利用者様個々に合わせている。車椅子のご利用者様でも、洗濯物が干せるように、ホールの天上に紐をつるし、タコ足をご利用者様の高さにあわせ、洗濯物を干して頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員の声掛け、説明で迷われる事があり、一度に多くの事を伝えず、単語でゆっくりとお伝えするようにしている。また、夜ホールの窓に映る人を見てびっくされるので、冬は早めにカーテンを閉めるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の前の畑や、併設施設との渡り廊下の庭に花を植えて頂いたりしている。玄関前のスペースでご利用者様が夕涼みをされたり、季節の良い時は、ベランダで外気浴を楽しまれたりしておられる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然に囲まれ四季折々の花や木々の中でご利用者様と共に久米の家の理念である「いっしょに・楽しく・ゆっくり・穏やかに」をモットーに生活しています。一緒に生活している中で、ご利用者様との関係づくりを大切にし、ご家族様、地域の方の協力を得て、ご利用者様を支えて毎日過ごしています。

今年の3月から共用型の通所介護も始まり、新しいご利用者様との出会いに感謝しています。